

衛生委員会だより 2025年10月

～がん検診で命を守る～

国が推奨するがん検診は、受けることによるメリットがデメリットを上回ることが科学的に証明されています。

ところが日本では1983年のがん検診導入以来、受診率は50%程度にとどまっています。

「時間がない」「健康には自信がある」「がんが見つかるのが怖い」などと考える人が多いためとされています。



がん検診の3つのメリット

■早期発見で負担の少ない治療で治せる

…治療の選択肢が広がり、経済的な負担や治療による体の負担も軽くて済む。

■死亡率が下がる

…受診率を向上させることが死亡率下げることにつながると考えられる。

■がんになる前の段階で治療できる

…大腸がんの便潜血反応や子宮頸がんの細胞診では、がんになる前の段階で異常(前がん病変)を発見し、精密検査や治療につなげることがきる。

日本で罹患率が多いがんは**大腸がん、肺がん、胃がん**です。

死亡率は2023年では第一位は肺がん、第二位は大腸がん、胃がんは第4位でした。大腸がん、肺がん、胃がんは国が推奨するがん検診の対象で、検診による早期発見・早期治療で死亡率を下げられることが分かっています。